

生きている武庫川④ 水は命

昔は水利をめぐって、命がけの様々な争いが起きました。農作をはじめ、水は生きていくうえで最も必要とされるものだからです。また、水難によって一つの村が消滅し多数の犠牲者が出るなど、生死に関わったからです。次の年表のように、武庫川に関する水利の抗争や水難の歴史を見ても、頻発していることがわかります。武庫川は、「暴れ川」「摂津の人取り川」の異名をもった川でした。また、武庫川に限らず、淀川や神崎川、その支流などにおいても水難は多くありました。尼崎は、海運や工業、農業など利水によって繁栄発展するとともに、治水に悩まされてきた都市でもあったのです。

武庫川に関わる水利、水難の歴史(中世～近世)

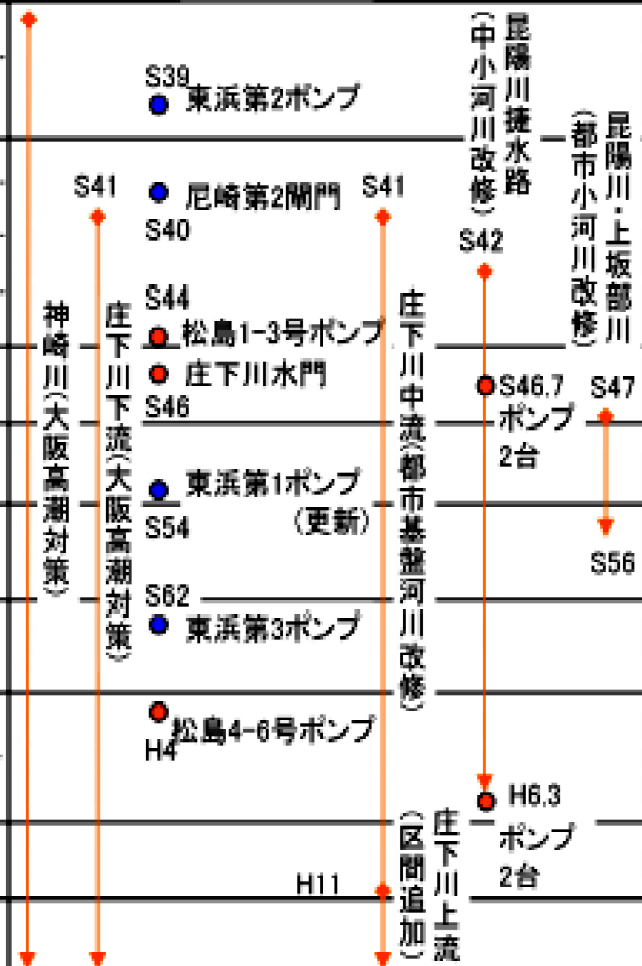
- 1504～20年 田近村が洪水にあい西昆陽村へ移転。
- 1580年頃 武庫川に関わる取水井組結成。
武庫川の堤切れにより時友村流失。
- 1591年 鳴尾北郷樋門をめぐって乱闘 50 余名処刑。
- 1592年 大井組と三平組井組乱闘 6 人死亡、庄屋 7 人処刑。
- 1611年 片桐且元ら検地衆により渇水期、野間井 6 分、百間樋門 4 分の分水定め。
- 1617年 このころ常松村から川水をもらい生島井組成立。
- 1647年 生島井組と武庫井組水論、武庫井組三ヶ村庄屋はりつけとなる。
- 1670年 武庫庄五兵衛、池造りに反対、斬首さる。
- 1687年 2 3 年にわたる生津村と富松井組 3 ヶ村の貝原溝争論解決。
- 1712年 武庫川の常松、常吉、西昆陽支配の堤切れ。 尼崎のほとんど浸水、常吉村流失。
- 1727年 尼崎藩が武庫川、猪名川の土砂留大名を拝命。
- 1762年 野間井、生島井組の西昆陽村松原における井溝堤争論、解決。
- 1768年 池尻村支配の武庫川堤切れ。 白藤稻荷 池尻村、西昆陽村が合祀。
- 1823年 野間井組で水論、井子 4 ヶ村から 1300 人が井親村の庄屋へ押しかける。
- 1865年 今北、守部村支配の武庫川堤切れ。
- 1870年 武庫川鉄橋工事開始。(日本最初の鉄橋、M6 完成)
- 1928年 武庫川改修全工事が竣工。(六樋門合併)



大正時代の改修計画

(郷土史家 氏田良一氏調べ：ラッフルズブレイス 畿内・西国街道の歴史より転載)

年代	年月日	雨量(mm)		河川名	浸水面積 (ha)	床下浸水 (棟)	床上浸水 (棟)	治水事業の実施状況
		総 量	1時間					
1950-55	S25.9.3 (ジェーン台風)	85.8	-	庄下川、昆陽川他	死者・不明28名、罹災者24万人			S30
1955-59								● 尼崎第1閘門 東浜第1ポンプ
1960-64	S36.6.24-27	407.8	27.0	昆陽川	155.0	1,045	150	S35
	S39.9.24-25 (第2室戸台風)	51.5	14.0	昆陽川	1.0	10	-	
1965-69	S40.5.26-27	89.0	10.5	庄下川、富松川他	329.0	2,236	100	S39 ● 東浜第2ポンプ
	S41.7.1-2	114.5	25.0	庄下川、富松川他	333.0	5,766	604	
	S42.7.9-10	295.5	60.5	庄下川、昆陽川他	1,150.0	20,300	3,641	
	S44.6.25	174.0	27.0	富松川、昆陽川他	131.0	858	86	
1970-74	S46.9.6	93.0	21.0	庄下川	3.8	400	4	S41 ● 尼崎第2閘門 S40 S44 ● 松島1-3号ポンプ ● 庄下川水門 S46 ● 東浜第1ポンプ (更新) S54 S62 ● 東浜第3ポンプ
1975-79								
1980-84	S58.9.27 (台風10号)	352.0	45.5	富松川、昆陽川他	58.8	1,232	37	S41 ● 松島4-6号ポンプ H4
1985-89								
1990-94	H6.8.20	49.0	28.0	記載なし	12.9	536	22	S41 ● 松島4-6号ポンプ H4
	H6.9.7	267.0	102.5	記載なし	6.9	2,249	1,104	
1995-99	H11.6.29	323.0	69.0	記載なし	28.2	357	26	S41 ● 松島4-6号ポンプ H4
2000-								



治水に尽くした人々

行基(ぎょうき) 行基は、良時代に活躍した僧侶。仏教の教えをもとに救済事業をすすめ、近畿地方に洪水対策の施設や用水確保のため池などを造りました。昆陽池や狭山池は、日本初の治水ダム(貯水池)で、幾たびかの改修を経て現在でも利用されています。また、行基は多くの寺や橋などを建設するとともに、最初の日本全図(行基図)を作成しました。社会事業とインフラ整備の先駆けとなった偉大な人物です。

豊臣秀吉 豊臣秀吉は、織田信長の家臣として台頭し、土木技術を巧みに活かした戦法、築城を得意とし、様々な土木施設を手がけた人物です。特に、大阪城の築城では、周辺地域の新田開発と洪水防御のために、淀川に太閤堤や文祿堤等を築き淀川の流路を固定させました。なお秀吉は、これ以外にも、多くの治水事業等に携わり、土木技術を飛躍的に発展・普及させた功績があります。

戸田氏鉄(うじかね) 神崎川分流の拡張改修築堤を行ない、左門殿川に名(官職名)を残しました。

近代における水害と治水の状況

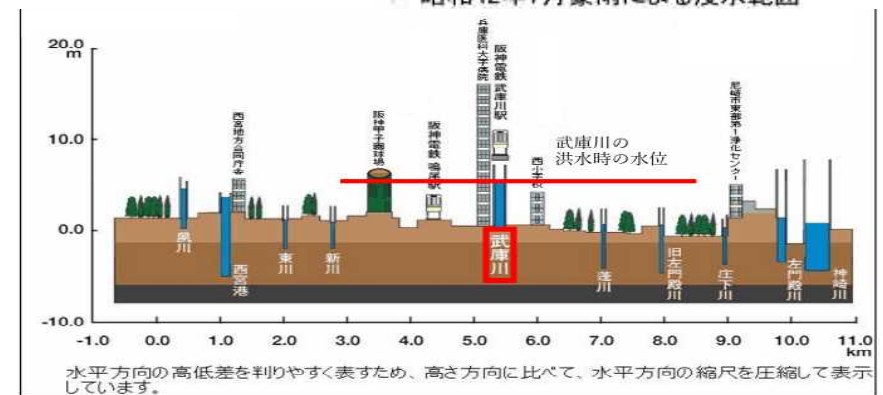
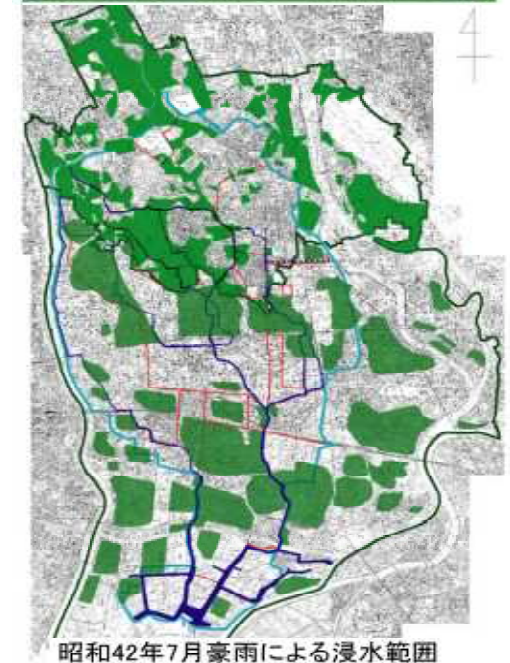
50年ほど前に上坂部小学校に通っていた方にお話を伺うと、「学校の前の川は、よく溢れ、年に1回ぐらいは氾濫で臨時休校になった記憶がある。その後、堤防のかさ上げとかして、ようやく溢れんようになったけど…」ということでした。「豪雨による被害(昭和42年)」の図を見ると、市域の半数が浸水したことがわかります。現在は、堤防のかさ上げ、ポンプ場設置による排水能力の向上、バイパス河川の開削、下水路の整備などの治水対策がなされています。また、平成16年の集中豪雨は、記憶にある方もおられるかと思います。武庫川も一部地域では氾濫して、避難命令が出されたことやおびただしい土砂や流木の堆積処理に期間を要しました。その後、武庫川における堤防強化対策も検討されています。

安全安心な社会と暮らし

何気ない毎日が風のように過ぎていく昨今ですが、歴史をふり返れば、安全安心は先人の知恵や工夫あるいは苦闘の上に築かれていることがわかります。地域を学ぶ、地域に学ぶ。歴史を学ぶ、歴史に学ぶ…学びの意義は、人々の想いに触れることによって、ますます深くなっていきます。

- 参考文献 日本の河川技術の基礎をつくった人々・略史(国土交通省)
- 写真・図表転載 神崎川圏域河川整備計画懇談会資料(兵庫県)
- 阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進計画(兵庫県)

豪雨による被害(昭和42年)



武庫川周辺の地形(阪神電鉄武庫川駅付近)